

## 平成 29 年度「学校評価」について

1992 年（平成 4 年）、北海道深川市にクラーク記念国際高等学校北海道本校が開校してから四半世紀を迎え、現在は全国のキャンパスで約 11,000 人を越える生徒が学んでいます。開校以来「一人ひとりの才能を開花させる教育」を目指し、①生徒が安心して通える学校、②自分の「好き」や「得意」を伸ばす多様なカリキュラムが本校の特色となっています。

さて、平成 29 年度の「学校評価」を実施するに当たり、「部会（校務分掌）組織」を活用しました。教員はキャンパスの枠を越えた教務、進路、生活指導、国際推進、広報、総務のいずれかの部会に所属しています。それぞれの部会は課題解決の共通理解を図るための資料収集、会議や研修会の開催などを通して各キャンパスにおける重点目標の達成をサポートする役割を担います。

そこで、今回の「自己評価」は、各部会が各種テスト、アンケート、いじめ調査、進路状況などの関係資料を集約、分析した結果に基づいています。

また、近年、多様化する通信制高校の教育の「質」が問われる中、本校は平成 28 年 11 月から、教育や教育行政に精通した有識者の方々に組織した「教育の質向上委員会」を設置し、専門家からの助言を取り入れ、自ら学校運営、教育活動の改善に努めてまいりました。

そのため、今回の「学校評価」では、その委員の方々による「第三者評価」も実施することができました。「自己評価」に対する丁寧な評価をいただくと共に、改善に向けた事例の紹介や数値目標の考え方、生徒に寄り添う姿勢を貫くことの大切さなど多くの貴重なご意見をいただくことができました。

これからも、クラーク記念国際高校の原点である、生徒一人ひとりを大切にす  
る教育を根幹に据え、皆様からますます期待される学校を目指し、教育活動の更  
なる改善に努めてゆく所存です。

クラーク記念国際高等学校  
校長 三浦 雄一郎